2010　道東ブロックトレセン　報告書（U-13）

期　日　　平成２２年８月７・８日（土・日）
会　場　　帯広の森サッカー場

１．参加選手（計１２名）

伊藤圭汰、工藤龍也、竹川薫紋、楠大我、野瀬誉斗、森山泰地、（以上Ｒ・シュペルブ）、
沼澤翔真、（ＳＣ釧路）、清水佑人（北）、佐々木史人（景雲）、橋本航希（根室柏陵）
大崎諒将、松井勇弥(以上、景雲 U14 早生まれ)

２．はじめに

７月２７日の釧根ＢＴＣを経て選考された１２名（釧路１１名・根室１名）が参加した。道東ＢＴＣでは、十勝、網走、釧根の４地区の選手が２グループに分かれ、１時間半のトレーニングと８人制のゲームを行った。また、２日目は地区対抗の１１人制ゲームが行われた。

グループ別トレーニング・ゲーム

グループ別のトレーニングは１時間半行われた。テーマは「ポゼッション」。攻撃のテーマではあるが、守備を徹底させるメニューをＴＲ１で行った。釧路の選手たちは、普段のトレセンで何度も守備のトレーニングを積んできた成果もあってか、個々で簡単に下がらないでボールを奪いにいく守備の意識が強かったように思える。しかし、チームとして味方や相手の状況を判断して守備をしている選手は少なかった。グループでの守備は今後も課題となるだろう。

攻撃ではやはり「観る」「観ておく」ことに課題を感じた。トレーニングにおいても、ゲームにおいても、春に比べるとかなり観ることを意識できるようになってきたが、「止めてから考える」という悪い習慣は改善できるように、今後もトレーニングを継続していかなければならない。

プレー以外の部分について。十勝の選手は、非常に積極的であった。集合時に一番乗りで駆けつける。返事、挨拶、人の目を見て話を聞くなど他地区の選手に比べてしっかりしていた。

地区別１１人制ゲーム（３０分×４）

どの地区よりも「サッカーの原則」に沿ってゲームをしようとしていた。５月からの道東トレセンマッチやトレーニングで徹底してきた成果と言っても良いだろう。

On the ball では、相手の門をこじ開けようとする無謀なパスも減り、優先順位を意識し、選択肢を多く持ったプレーが目立ってきた。

Off the ball では、ボールの移動中のポジショニング（裏を狙う、幅をとる、ＤＦの受け皿）や顔を出すタイミングは春先に比べて確実に良くなってきた。また、ボール保持者に対してパスコースを多く作るためのかかわりも多く見られた。

その結果、ボールを保持し、ゲームを支配する時間帯が増えたが、全てのゲームには勝ちきれていない。課題は、以下の通りである。

≪判断が遅い＝テクニック・フィジカルで解決することが多い≫

春からの課題で、解決しきれていない部分である。U13 は比較的テクニックのある選手が多い。これは非常に喜ばしいことである。が、そのテクニックに頼りすぎて、判断（意図）のない１ｓｔタッチをすることがしばしば見られる。結果、相手に囲まれ奪われたり、無謀なパスやドリブルで失ってしまったりする。

しかし、現状ではテクニックやフィジカルで強引にくぐり抜けたり、ドリブルで持ち続けてからパスをしたりと、何とかなってしまっている。一見ナイスプレーともとれそうなプレーでも、強いプレスがかかってきたときにほぼ通用しないプレーとなってしまう。現に、帯広北高とのマッチで何もさせてもらえなかった。１タッチ、２タッチでシンプルなプレーができるように「観る」「観ておく」ことの質を高めていくことが求められる。

≪パス＆コントロールの質＝スピード、方向、置き所≫

筋力的な問題もあるが、蹴り方（軸足の踏み込み、蹴り足のスイング）をトレーニングから意識させていく必要がある。攻撃では、パススピードがゆるく、チャンスを逃すことも多く見られた。

また、失点は、１ｓｔタッチの置き所が悪く→視野が狭くなり→パスミスが起こり→失点。という場面が目立った。釧根の選手たちは、普段あまり良くないピッチコンディションでトレーニングをしなければならないハンディもあるが、パスの質とともにコントロールの質を高めていくトレーニングは継続していく必要がある。

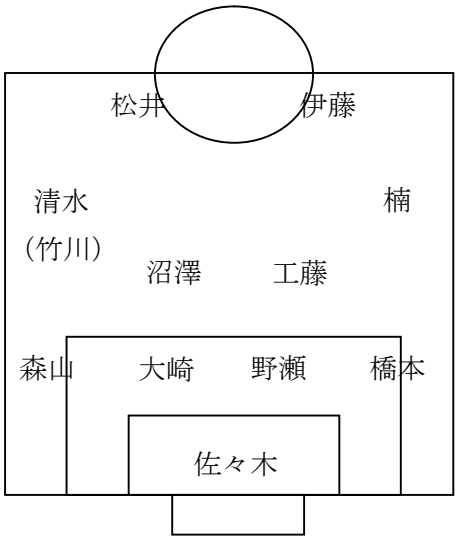
≪組織的な守備＝コミュニケーション≫

ＴＲ１で守備を入れたように、守備がゆるいと攻撃のトレーニングが高まらないという悪循環が起こる。ゲームでも、判断なくテクニックやフィジカルに頼って解決してしまうのは、普段からそういうプレーで解決できてしまうからである。そのような意味でも、守備のトレーニングは非常に大切であると感じる。

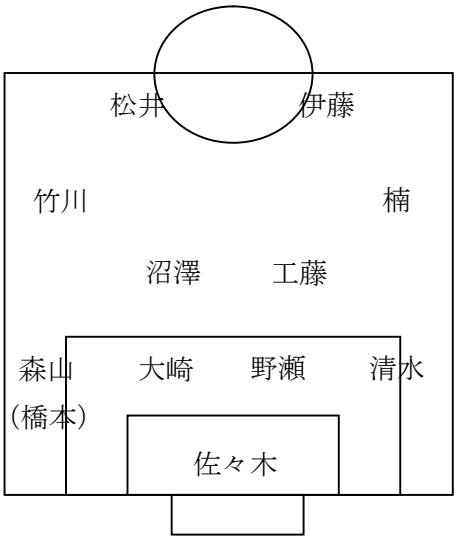
今回は、無失点で終わるゲームは無かった。また、後半のゲームでは失点から始まって何とか追いついた。失点は様々な要素が重なり合って起こっているが、その一つとして「コミュニケーション不足」が挙げられる。以前よりも意図的に追い込んで奪うなど、グループでの守備ができるようになってきたが、そのコミュニケーションが絶えずとられているかと言うとそうではない。ボール保持者と１stＤＦの状況を観ること、自分の相手を観ておくこと、そしてそれに対してチームとしてどのようにマークにつくのか、動いてくる相手を受け渡すのか、付いていくのかなど変化に応じてコミュニケーションを絶えず取り続けることが求められる。

３．ゲーム（30 分）

○ １試合目	ｖｓ網走	２－１
○ ２試合目	ｖｓ十勝	３－１
○ ３試合目	ｖｓ十勝	３－３
○ ４試合目	ｖｓ網走	１－１



１・２本目



３・４本目

４．今後の課題

○攻　撃…「観る」→習慣化

「止める」「蹴る」の質→蹴り方、正確性、パススピード

→動きながらのコントロール、置き所

「ポゼッション」　→攻撃の原則の理解、パスコースになる、動き出しのタイミング、相手との距離

○守　備…「観る」→習慣化

「Off の守備」　→ポジショニング（良い準備）、守備の優先順位の理解、コーチング

「On の守備」　→積極的に奪いに行く、ステップワーク、粘り強い対応

○攻→守の切りかえ…「観る」→習慣化

「スピード」→１st ディフェンダーの決定、アプローチのスピード

「ポジショニング」→２nd、３rd…のポジショニング

○守→攻の切りかえ…「観る」→習慣化

「スピード」→拡がり

「ポジショニング」→ゴールと相手の状況を観て判断

※　工藤龍也（Ｒシュペルブ）・沼澤翔真（ＳＣ釧路）・松井勇弥(景雲)　の３選手が８月２８日から日高町で開催される「2010　U-13・14ＨＯＫＫＡＩＤＯトレセンキャンプ」の道東代表選手として選考された。

文責：釧路トレセンＵ－１３チーフ　所　桂太郎